

トラック荷台の昇降設備、保護帽等の利用実態等に関するアンケート

トラックの荷台の昇降設備、保護帽、テールゲートリフター及びロールボックスパレットの利用等について、以下の設問にご回答ください。

【合計 114 事業所回答】

【保有するトラック(最大積載量別)(延べ数)】

【保有するトラック総数】

小型トラック (最大積載量 2.0 トン未満)	69 事業所
準中型トラック (最大積載量 2.0 トン以上 4.5 トン未満)	98 事業所
中型トラック (最大積載量 4.5 トン以上 6.5 トン未満)	70 事業所
大型トラック (最大積載量 6.5 トン以上)	106 事業所

1~30 台保有	32 事業所
31~50 台保有	30 事業所
51~100 台保有	20 事業所
101 台以上保有	32 事業所

【トラック荷台からの墜落・転落を防止するための対策について】

1 下表左の(1)自社の構内、(2)発荷主の構内及び(3)着荷主の構内における、下表上段の①~⑤の設備の設置状況について、「※おおよその実施状況」を参考にして、下表の4~0に該当する回答数字に○印でご回答ください。
(該当する項目すべてを選択してください。
発荷主及び着荷主については主な荷主先における対策の実施状況をご回答ください。)

回答数字	おおよその実施状況 (実施率)
4	完全に実施している (100%)
3	ほぼ実施している (75%)
2	半分程度実施している (50%)
1	一部実施している (25%)
0	実施していない (0%)

	① トラックの荷台への昇降設備(トラックに付属)の設置	② トラックの荷台と段差のないプラットフォームの設置	③ トラックの荷台の外側に設ける作業床の設置	④ トラックの荷台への墜落制止用器具(安全带等)の取り付け設備の設置	⑤ トラックの荷台に昇降するための踏台等の備え付け
(1) 自社の構内	4 3 2 1 0 回答数 107 平均値 1.8 (内訳) 23 23 3 26 32 21% 21% 3% 24% 30%	4 3 2 1 0 回答数 106 平均値 1.3 (内訳) 13 22 5 8 58 12% 21% 5% 8% 55%	4 3 2 1 0 回答数 107 平均値 0.9 (内訳) 5 17 4 18 63 5% 16% 4% 17% 59%	4 3 2 1 0 回答数 107 平均値 1.1 (内訳) 11 14 7 17 58 10% 13% 7% 16% 54%	4 3 2 1 0 回答数 110 平均値 1.6 (内訳) 18 18 11 24 39 16% 16% 10% 22% 35%
(2) 発荷主の構内		4 3 2 1 0 回答数 103 平均値 1.7 (内訳) 8 25 21 27 22 8% 24% 20% 26% 21%	4 3 2 1 0 回答数 104 平均値 1.2 (内訳) 4 16 20 20 44 4% 15% 19% 19% 42%	4 3 2 1 0 回答数 105 平均値 1.2 (内訳) 8 10 17 22 48 8% 10% 16% 21% 46%	4 3 2 1 0 回答数 106 平均値 1.5 (内訳) 12 17 16 27 34 11% 16% 15% 25% 32%
(3) 着荷主の構内		4 3 2 1 0 回答数 105 平均値 1.4 (内訳) 2 19 24 37 23 2% 18% 23% 35% 22%	4 3 2 1 0 回答数 105 平均値 1.0 (内訳) 4 10 16 31 44 4% 10% 15% 30% 42%	4 3 2 1 0 回答数 106 平均値 1.0 (内訳) 4 11 14 26 51 4% 10% 13% 25% 48%	4 3 2 1 0 回答数 106 平均値 1.0 (内訳) 4 10 17 30 45 4% 9% 16% 28% 42%

2 荷主企業等に対し、1の設備の対策について設置等の配慮依頼を行ったことがありますか。**回答数：103 事業所**

ある 26(25%) ・ ない 73(71%) ・ あるが受け入れてもらえていない 4(4%)

(理由)

- ・ 使用頻度・スペース・コスト負担などによりなかなか実現しない
- ・ リフトでの積卸作業がメインな為必要なし
- ・ 業務上必要がないため必要なし
- ・ 冷蔵バースなので必要なし
- ・ 荷台への昇降設備が無くても、バンパーやアオリのキャッチにより 3点支持で乗降すれば安全であると考えているため
- ・ 設備改善を行う工事期間中に、設備の代替がないため現実的ではない
- ・ 安全対策の基本は自社に求められているとの考えから、荷主の設備改善には意識が向いていない 等

【保護帽(ヘルメット)の着用について】

1 (1)~(4)のトラックの区分別の荷役作業時の保護帽(ヘルメット)着用の状況について回答してください。

※該当する区分のトラックを所有していない場合は回答しないでください。

また複数の区分のトラックを所有している場合は区分ごとに回答してください。

(1) 小型トラック(最大積載量2.0トン未満) **回答数：79 事業所**

着用させている 56(71%) ・ 着用させていない 13(16%) ・ どちらでもない 10(13%)

(具体的なドライバーの着用場面)

- ・ 平ボデーは着用、食品等の冷凍車は無着用
- ・ 積場、卸場では着用を義務づけ
- ・ フォークリフト運転操作時に着用
- ・ 作業構内で着用
- ・ 荷役作業時に着用
- ・ 重量品作業や不安定な荷の取扱い時に着用
- ・ 着用が必要とされている顧客先では着用
- ・ 荷役等関係なく着用させている
- ・ 作業中ヘルメット着用を義務付け
- ・ 運転席から出る時から戻るまでの間
- ・ 荷台に乗っているとき
- ・ センターのルールに従う
- ・ 荷積み卸し作業
- ・ 発荷主场
- ・ 業務中は常時
- ・ 積込・荷卸・荷造り時 等

- (2) 準中型トラック（最大積載量 2.0 トン以上 4.5 トン未満）**回答数：100 事業所**
 着用させている **78 (78%)** ・着用させていない **10 (10%)** ・どちらでもない **12 (12%)**
 （具体的なドライバーの着用場面）
 ・同上
- (3) 中型トラック（最大積載量 4.5 トン以上 6.5 トン未満）**回答数：82 事業所**
 着用させている **69 (84%)** ・着用させていない **8 (10%)** ・どちらでもない **5 (6%)**
 （具体的なドライバーの着用場面）
 ・同上
- ※うち 5 トン以上 **回答数：76 事業所**
 着用させている **69 (91%)** ・着用させていない **4 (5%)** ・どちらでもない **3 (4%)**
 （具体的なドライバーの着用場面）
 ・同上
 ・ウイング開放時
 ・2m以上作業時
- (4) 大型トラック（最大積載量 6.5 トン以上）**回答数：105 事業所**
 着用させている **96 (91%)** ・着用させていない **6 (6%)** ・どちらでもない **3 (3%)**
 （具体的なドライバーの着用場面）
 ・荷積卸し構内における車外、タンク上部に上がる際
 ・トラック内以外の構内全て
 ・荷役作業、フォーク使用時
 ・構内は義務化している
 ・フォークリフトを使用する場合
 ・積卸時、シート掛け時
 ・納品先構内 等

2 荷役作業時に保護帽（ヘルメット）を着用させていない理由（該当する項目すべてを選択）

回答数：28 事業所

- (1) 保護帽（ヘルメット）着用に関する法令の義務がないため **18 (64%)**
- (2) 労働災害が発生していない（あるいはほとんどない）ので、
 必要性を感じないため **12 (43%)**
- (3) ドライバーが保護帽（ヘルメット）着用に対抗するため **4 (14%)**
- (4) 保護帽（ヘルメット）の購入や実施に手間やコストがかかるため **1 (4%)**
- (5) 昇降設備があれば十分なため **2 (7%)**
- (6) その他（具体的な理由 **10 (36%)**）
 ・食品センター内リフト作業以外はヘルメットを着用していると邪魔になる
 ・ルールが徹底できない
 ・着用しての業務は難しい
 ・業務内容的に不要と判断しているため 等

3 荷役作業時に着用させている保護帽（ヘルメット）の種類 回答数：103 事業所

- (1) 飛来・落下用 33 (32%)
- (2) 墜落時保護用 70 (68%)
- (3) 不明・その他 0 (0%)

4 荷役作業時に保護帽（ヘルメット）以外、頭部に何か着用させていますか。

回答数：111 事業所

着用させている 22 (20%) ・ 着用させていない 89 (80%)

➔ 着用させている場合、具体的な着用物

- ・作業帽
- ・インナーヘルメット

【テールゲートリフター(TGL)付きトラックについて】

1 TGL 付きトラックを所有していますか。回答数：114 事業所

所有している 74 (65%) ・ 所有していない 40 (35%)

2 TGL での荷の昇降に際し、TGL オペレーターが荷と同時に昇降することを禁止していますか。

回答数：74 事業所

禁止している 23 (31%) ・ 禁止していない 51 (69%)

➔ 禁止している場合の具体的な昇降方法

- ・TGL をステップとして利用する際は必ず停止した状態で行う
- ・車両備え付けの昇降踏台を使用
- ・半分の高さで停止させ階段状で荷台へ昇る
- ・トラック後部のバンパーを踏台にする
- ・昇降台の使用または3点確保
- ・昇降用の脚立を常備させ使用
- ・荷台へ直接昇降する 等

3 TGL オペレーター以外の人のみが荷台を昇降する際、TGL での昇降を禁止していますか。

回答数：70 事業所

禁止している 29 (41%) ・ 禁止していない 41 (59%)

➔ 禁止している場合の具体的な昇降方法

- ・3点確保により乗降する
- ・リフトゲート床を地上30cmで停止
- ・プラットホームから乗り込む
- ・昇降用の脚立を常備させ使用 等

4 TGL でロールボックスパレット (RBP) (カゴ車の意) を昇降する際、RBP のキャスターストッパーをかけさせていますか。回答数：67 事業所

かけさせている 65 (97%) ・ かけさせていない 2 (3%) ・ ついていない 0 (0%)

5 TGLには、何らかの安全対策が施されていますか？ 回答数：73 事業所

施している 56 (77%) ・ 施していない 17 (23%)

→施している場合、以下のような対策は実施していますか。実施しているものに○印で
ご回答ください。

【設備等の対策】 回答数：51 事業所

転落防止用の安全柵 (左右) 15 (19%) ・ 滑り止め加工 34 (67%) ・ その他 13 (25%)

※その他の具体的な対策内容

- ・ ストッパー設置
- ・ 落下防止ラインを引いている
- ・ キャスターストッパー立上げ状態時は黄色で識別
- ・ ゲートストッパーを着色による見える化
- ・ 中心部に黄色いラインを引き、中央に RBP を積載する
- ・ RBP は必ず 1 台降ろしでキャスターストッパーをかける 等

【ソフト面の対策】 回答数：46 事業所

TGL の安全教育 28 (61%) ・ 作業手順書の作成 25 (54%) ・ その他 7 (15%)

※その他の具体的な対策内容

- ・ TGL・RBP の取扱い DVD を社内独自で作成し研修に活用
- ・ マニュアル作成
- ・ PG 操作指示書に基づく教育 等

6 TGLの点検を定期的実施していますか。 回答数：73 事業所

実施している 59 (81%) ・ 実施していない 14 (19%)

→ 実施している場合、具体的な頻度は 回答数：56 事業所

使用開始前 14 (25%) 月に 1 度 8 (14%) 四半期に 1 度 15 (27%)

半年に 1 度 5 (9%) メーカーが推奨する頻度 19 (34%)

7 TGLの取扱いに係る教育を実施していますか。 回答数：73 事業所

実施している 55 (75%) ・ 実施していない 18 (25%)

→ 実施している場合、どのような教育ですか

- ・ 日々の OJT に加え取扱いチェックシートに基づいた実地訓練を実施
- ・ TGL に関する安全動画を作成し研修にて使用
- ・ TGL 事故防止を啓発するパンダ-の作成配布
- ・ TGL を使用する者に対して 30 分程 OJT
- ・ 四半期毎の定期検査時に TGL の安全実技と作業手順書の再確認を 1 時間程実施
- ・ 30 分間、OJT、使用方法及び危険行為確認
- ・ 教育動画の視聴を 10 分程度
- ・ TGL のメーカーと一緒に安全教育をしている
- ・ 月 2 回社内で巡回し積卸時のルール確認
- ・ 事故防止の DVD 等、危険予知
- ・ 管理者による同乗指導 等

【ロールボックスパレット(RBP)の取扱い】

- 1 RBP (所有している場合を含む。)を扱っていますか。回答数：114 事業所
扱っている 57 (50%) 扱っていない 57 (50%)
→ RBP の所有者はどなたですか。回答数：55 事業所
自社(陸運業者) 7 (13%) 荷主等 30 (55%) 両方(自社及び荷主等) 18 (33%)
- 2 RBP を扱う際、荷の積載重量、高さ等のルールを決めていますか。回答数：56 事業所
決めている 34 (61%) ・ 決めていない 22 (39%)
→ 決めている場合、どのようなルールとしていますか。
・ 重量物を下積み、シッパー付カゴ車の可多積み禁止
・ 積荷が RBP からはみ出ない、許容量以内、偏荷重にしない
・ RBP のメーカー基準をベースに特性に応じてルール設定
・ 商品規格に準じてルールを定めている
・ RBP の高さ以上は積載しない
・ 1台 100kg 以内
・ RBP の上部を超えない、RBP の限界重量以下
・ 積載重量 500kg ・ 高さ 1.7m 以内 ・ 容積 1.8 m³ 以内
・ 最大 400kg 高さは RBP 柵まで
・ パレット枠内の高さまでと重量は耐荷重まで
・ RBP をはみ出さない高さまで
・ 客先のルールに従う
・ 高さ 150mm まで、ストレッチフィルム巻く
・ 商品ごとに過積載にならないよう計測し個数を決める
・ 高さ 1.5m、重さ 400kg まで 等
- 3 RBP 作業時に、毎度、保護手袋を着用させていますか。回答数：57 事業所
着用させている 52 (91%) ・ 着用させていない 5 (9%)
- 4 保護手袋を着用させていない理由 (該当する項目すべてを選択) 回答数：5 事業所
(1) 保護手袋着用に関する法令の義務がないため 3 (60%)
(2) 労働災害が発生していない (あるいはほとんどない) ので、
必要性を感じないため 2 (40%)
(3) ドライバーが保護手袋着用に反対するため 0 (0%)
(4) 保護手袋の購入や実施に手間やコストがかかるため 0 (0%)
(5) その他 2 (40%)
・ ドライバーに任せている
- 5 RBP 作業時に、毎度、保護帽 (ヘルメット) を着用させていますか。回答数：57 事業所
着用させている 29 (51%) ・ 着用させていない 28 (49%)

6 保護帽（ヘルメット）を着用させていない理由（該当する項目すべてを選択）

回答数：24 事業所

- (1) 保護帽（ヘルメット）着用に関する法令の義務がないため 16 (67%)
- (2) 労働災害が発生していない（あるいはほとんどない）ので、必要性を感じないため 12 (50%)
- (3) ドライバーが保護帽（ヘルメット）着用に反対するため 5 (21%)
- (4) 保護帽（ヘルメット）の購入や実施に手間やコストがかかるため 1 (4%)
- (5) その他 3 (13%)
 - ・ 荷積み卸しは着用だが、仕分け作業やコース移動は未着用

7 RBPに軽度の不具合（車輪の回転が悪いなど使用に支障がない程度の不具合）があるときは、そのRBPをどのように取り扱っていますか。回答数：57 事業所

（やむを得ず）使用させている 23 (40%) ・ 使用させていない 34 (60%)

8 RBPの点検を定期的実施していますか。回答数：51 事業所

実施している 29 (57%) ・ 実施していない 22 (43%)

➔ 点検はだれが実施していますか。回答数：36 事業所

RBPの所有者 21 (58%) ・ 取り扱っている者 15 (42%)

➔ 点検している場合、どのような点検を行っていますか。回答数：26 事業所

メーカーの推奨する方法で点検 11 (42%)

部品の状態を目視により確認 12 (46%) その他 5 (19%)

➔ 点検している場合、具体的な頻度はどの位ですか。回答数：24 事業所

使用開始前 13 (54%) 月に1度 4 (17%) 半年に1度 2 (8%)

メーカーが推奨する頻度 7 (29%)

【転倒災害を防止するための対策について】

1 転倒災害を防止するための対策に取り組んでいますか（該当する項目すべてを選択）

回答数：114 事業所

- (1) 手すり、滑り止めの設置、段差の解消、照度の確保等の設備の改善 70 (61%)
- (2) 通路、階段、作業場所等の整理・整頓・清掃の実施 86 (75%)
- (3) 滑りにくい靴の支給又は推奨 65 (57%)
- (4) 転倒しやすい場所に注意喚起の標識の掲示等の危険箇所の見える化 40 (35%)
- (5) 転倒予防に関する教育の実施 64 (56%)
- (6) 作業スピード、作業姿勢、作業方法等の変更 29 (25%)
- (7) 体力測定等による転倒リスクの判定 4 (4%)
- (8) 身体機能、体力等に応じた業務、就業場所の変更 31 (27%)
- (9) ストレッチ体操等の体操・運動の実施 27 (24%)
- (10) その他 1 (1%)
- (11) 取り組んでいない 4 (4%)

【安全衛生教育について】

1 陸上貨物運送業における荷役作業に従事する者に対する安全衛生教育を行っていますか（該当する項目すべてを選択） **回答数：114 事業所**

- (1) トラックへの荷の積卸し作業（ロープ掛け作業及びシート掛け作業を含む。）を含む基本的な荷役作業に係る災害防止対策 **83 (73%)**
- (2) 荷役作業時の墜落・転落災害の防止 **83 (73%)**
- (3) テールゲートリフター（TGL）の取扱いによる労働災害の防止 **53 (46%)**
- (4) ロールボックスパレット（RBP）の取扱いによる労働災害の防止 **39 (34%)**
- (5) フォークリフトなど荷役運搬機械、荷役用具・設備による労働災害の防止 **90 (79%)**
- (6) 転倒による労働災害の防止 **60 (53%)**
- (7) 腰痛予防対策 **54 (47%)**
- (8) その他荷役災害防止に必要な事項 **10 (9%)**
 - ・怪我防止の為に長袖着用
- (9) 安全衛生教育を行っていない **1 (1%)**

2 1の安全衛生教育の実施頻度（該当する項目すべてを選択） **回答数：112 事業所**

- ・新しく雇い入れたとき **85 (76%)**
- ・作業内容を変更したとき **45 (40%)**
- ・月に1回 **11 (10%)**
- ・半年に1回 **24 (21%)**
- ・1年に1回程度 **27 (24%)**
- ・1年を超える期間に1回程度 **3 (3%)**
- ・その他 **12 (11%)**

【その他】

荷積み・荷卸し場所について、過去に荷主から求められたことや、荷役作業を安全に実施する上での問題点について、率直なご意見をお聞かせください。

- ・荷積み、荷卸し先のフォークリフトで自主荷役がある以上、先方のフォークリフトを使用、労災事故があった場合の責任区分について
- ・荷積み・荷卸しでの待機時間
- ・荷卸し場所を荷主都合で指定されるため、安全の確保が難しい場所での荷卸しを求められることがある。
- ・機械等の重量物の輸送が多く、都度現場によって状況がかわり対応が難しい面がある。特にはじめて行く現場は下見が重要になる。
- ・パレットをフォークで積み卸し作業を行う際、手指のはさまれ防止のルールを決めて運送することが求められている。
- ・荷積み荷卸し場所の設備的な問題に対して、設備を改善するという本質安全化ではなく、陸運業者にて、プラットフォームに横付けしたトラックをウイングを開けた状態で他に接触しないように気を付けて前後に移動する等の作業方法によって対応するよう求められる。
- ・住宅街の新築現場へ断熱材を輸送する際に道路が狭く到着できないときは目的地から離れた場所にトラックを止めて担いで何往復もする場合がある

- ・ 安全带を持参する際荷卸し先に取り付け設備が無いことがある
- ・ 全ての納品先に屋根のある構内とは限らないこと
- ・ 大型車等の荷役について、バラ積、バラ卸は大変過酷であり、熱中症となる場合がある
- ・ お客様の荷捌き場が狭いため荷役作業が行いにくい
- ・ 発着荷主構内における墜落転落防止対策の推進と荷主所有の RBP については運送業者では対策はとれない
- ・ 作業床を設置すべき作業であっても設置されている積卸場所が限られており、無い場合はパレットを重ねて足場になっているのが実情
- ・ 特に大手運送会社や物流会社の仕事でドライバーまかせの積卸が多く。店舗配送などは特に卸し場所が狭く、荷待ちがあり路上駐車になる。
- ・ 荷積み荷卸し場所に荷台への昇降用の階段の設備を備えて欲しい
- ・ 平ボデーにシート掛けを行う際、足場や安全带が無い場合ある
- ・ 荷台から降りる際踏台がないため飛び降りるしかない場面がある
- ・ 現場ではスピードが必要以上に求められるため作業が雑になり事故に繋がる可能性が高い。効率＝作業時間の短縮ではないと認識して欲しい
- ・ 荷卸し場所が路上で行う場合、安全な平地では無い所もある。段差等がある場合の対策がない
- ・ 現場の実情を知らずに過剰で不要な安全対策指示があるが、こちらに対策を求められた方が適切な提案ができると思う
- ・ 荷積み卸し時の荷主の立会を徹底して欲しい
- ・ 新規の荷主では安全対策が取られていない所が多々あるが、こちらからは言いづらい
- ・ 荷役作業は本人の意思よりも現場作業員など管理者が立ち合いをして行った方が良いと思う
- ・ 安全を担保するためのコストの一部を荷主に負担していただきたい
- ・ 荷卸し場所についてはほぼトラックの高さに見合ったホームがない